

vol.90

2015 年 12 月号

公益財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金

〒105-0022 東京都港区海岸 1-4-26 ゆうらいふセンター

電話：03-3434-2170 FAX：03-5401-0681

URL: <http://www.niceheart.or.jp/>



な い す は あ と



鳥取県初開催!! ふれあいのスポーツ広場米子大会の様子

表紙／写真 ふれあいのスポーツ広場米子大会	1
報告／ふれあいのスポーツ広場レポート	
駒井 遙香さん（同志社大学スポーツ健康科学部）	2
神 駿太郎さん（仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.）	3
ふれあいのスポーツ広場集計表	5
報告／ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ報告書 メイミさん ...	6
特定寄付金決算報告書	8
賛助会員お礼	8



ワークショップでの経験を踏まえ、防府大会に参加してみて



同志社大学スポーツ健康科学部
駒井 遥香



9月1日から3日にわたり、愛知県の日本福祉大学でユニバーサルスポーツワークショップに参加した。ワークショップの内容は、学生が主体となって障がいのある子どもたちとの交流会を一からつくり上げるというものだった。その内容を聞かされた時には、いろんなことに対しての不安がよぎった。本当に学生だけで交流会の運営が出来るのか、障がい者（児）との接し方はどのようにすれば良いのか等、それだけには収まらなかった。

まず、共に交流会をつくり上げていく仲間となる他大学の学生たちと交流を深めることから始まった。また、3大学混合のチームを2つ作り、そのチーム毎に交流会で子どもたちと一緒に楽しんで頂くゲームを考えるというのが主な作業であったのだが、その作業をする過程で特に感じたことは、自分から積極的に発言・行動することの重要さである。たとえ大人数が集まっても、

言葉を交わさないと繋がるものも繋がらない。それに気付いてからは、積極的に動くよう心掛けた。おそらく、私と同じようなことを考えた人は少なくはなかっただろう。その結果、本番前日には全員が一体となって素晴らしいものをつくり上げることに成功した。

しかし、本番を終えて、個人的に少し後悔したことがあった。それは、障がいのある子どもたちとのコミュニケーションの取り方だった。私自身、障がい者（児）と接するのは今回のユニバーサルスポーツワークショップが初めてであり、「健常者と接する時よりも、ゆっくりわかりやすく丁寧に言葉を選びながら話すこと」を心掛けるつもりでいた。実際、本番では、それを実行できたようにも思う。ただ、意識が過剰になったのか、あまり自分から進んで子どもたちのところへ行くことが出来ていなかった、と自己反省することとなった。



ふれあいのスポーツ広場に参加して

ユニバーサルスポーツワークショップで得た自分の課題を踏まえて参加したのは、ふれあいのスポーツ広場防府大会である。この大会は、実施するゲームも決まっており、運営は補助的な位置だったので、ユニバーサルスポーツワークショップとはそのような点で異なるものだった。

実際に参加してみて率直に思ったことは、これはユニバーサルスポーツワークショップの時にも思ったのだが、「障がい者（児）の人たちは本当にまっすぐできれいな心を持っているな」ということだ。どの人を見ていても本当に大会を楽しんでくださり、私たちまで元気を頂いた。そして、以前の反省を生かし、自分なりにユニバーサルスポーツワークショップの時よりも積極的に障がい者の人たちに歩み寄った。最初はコミュニケーションが上手いかなかったが、会話が續くと徐々に親しくして頂き、本当に喜びを感じた。私たちが用意してきたゲームも、ミスはしたが楽しんでくだ



さった手ごたえはあった。

何百人という人の前に立ち、自らの言葉で人を動かすという大きすぎる経験は、これからの自分を作ってくれる材料になるに違いない。ユニバーサルスポーツワークショップを踏まえ参加したふれあいのスポーツ広場防府大会では、積極性、同じ目線になること、そして自らが心から楽しむこと、の大事さを学ぶことが出来た。防府大会に参加して得たものを今後の自分に繋げていくことが、理想である。

ふれあいのスポーツ広場とワークショップに参加してみて



仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. 神 駿太郎

私は、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.（コアクト）に所属しています。私たちは、2011年からナイスハートふれあいのスポーツ広場の午後の競技、ユニバーサルレクリエーションを担当させていただいております。ユニバーサルレクリエーションでは、アイスブレイクとして「あとだしじゃんけん」、「グーパー体操」から始まり、第1競技「ご当地ゲーム」、第2競技「ジャンボールリレー」、第

3競技「巨大オセロ」という競技を行っております。ナイスハートふれあいのスポーツ広場の100～300名という大人数の前での競技説明という経験が初めてで、最初は緊張と戸惑いでいっぱいでした。本番が始まり緊張しながら説明していましたが、参加者の皆さんが声を出して一緒に踊ったり、走ったりしながら仲間と頑張っている姿を見ていると自然と緊張もほぐれ、私も楽しみながら競技を進行させてい



「あとだしじゃんけん」

ただくことができました。参加者の皆さんが楽しく競技している姿を見ていると私も楽しく、とてもやりがいを感じています。

ユニバーサルスポーツワークショップの経験

このような貴重な経験をさせていただいているなかで、自分たちで考えたユニバーサルスポーツを、実際に支援学校の生徒の皆さんに体験していただくユニバーサルスポーツワークショップというさらに貴重な経験を9月の初旬にしました。同志社大学のみなさんと日本福祉大学のみなさんと2泊3日という期間でやらせていただきました。最初は緊張や不安がある中で会話や競技について班での話し合いで打ち解けていくことが出来ました。競技を自分たちで考えることは、とても大変でなかなか進みませんでした。しかし、みんなそんな状況の中で楽しみながら競技を考えていて、その雰囲気がとても楽しく充実していると感じられるひとときでした。そして、競技が完成し実際にやってみると改善点があり、修

正を何度も行いながら本番に臨みました。本番では、私が司会を務めさせていただきとても重要な役割を担わせていただきました。司会はとても大変でしたが、周りの皆さんのご協力のおかげで最後までやり遂げることができ、達成感を味わうことができました。今回のユニバーサルスポーツワークショップでは、競技や司会の原稿など全てを一から作り、やり遂げるこの大変さ、その過程で築かれる仲間との信頼関係や仲間の大切さ、周りの方々への感謝の気持ちなどを学ばせていただきました。



「ユニバーサルスポーツワークショップ交流会の司会」

ナイスハートふれあいのスポーツ広場では、たくさんの方々に関わっていただいているため、大学生である私たちがたくさんのお先輩方とお話しをさせていただく貴重な機会や、競技進行をすることで自分自身が成長できる機会を与えていただいていることに感謝させていただいております。そしてこれからも微力ではありますが、ナイスハートふれあいのスポーツ広場のために精一杯協力させていただきたいと思っております。

ふれあいのスポーツ広場は、スポーツを通じて障害の有無に関わらず、誰もが楽しみながら相互理解を得るための場として、当基金の設立以来、開催をしています。

誰もが楽しめるユニバーサルなスポーツ大会とするために、同志社大学スポーツ健康科学部教授の藤田紀昭先生を中心に、競技の開発を進めており、大学生のみなさんにご協力いただきながら、プログラムを開発をしています。



「ユニバーサルスポーツワークショップ交流会 ニュープログラム」

平成27年度下半期ふれあいのスポーツ広場開催報告

平成27年度のふれあいのスポーツ広場について、下半期の開催報告を致します。下半期は17都府県の開催（神奈川県は座間大会は12月19日開催予定）となりました。来年度も自動車総連のみなさまと共に、数多くの参加者と笑顔でふれあう大会となりますように準備を進めて参ります。

No.	開催地	日程	会 場	参加者数
21	山口（防府）	9月6日（日）	ソルトアリーナ防府	443
22	滋賀（竜王）	9月27日（日）	竜王町ドラゴンスポーツセンター	292
23	和歌山（和歌山）	10月14日（水）	和歌山ビッグウエーブ	522
24	千葉（千葉）	10月19日（月）	千葉公園スポーツ施設体育館	422
25	青森（青森）	10月19日（月）	新青森県総合運動公園マエダアリーナ	414
26	愛知（豊田）	10月25日（日）	つどいの丘アリーナ	234
27	三重（亀山）	10月31日（土）	亀山市東野公園体育館	225
28	佐賀（小城）	11月8日（日）	小城市三日月体育館	350
29	鳥取（米子）	11月9日（月）	鳥取県立米子産業体育館	193
30	島根（松江）	11月10日（火）	松江市総合体育館	298
31	大阪（大阪）	11月12日（木）	大阪府立体育会館	536
32	東京（港区）	11月14日（土）	東京都立港特別支援学校	210
33	熊本（人吉）	11月14日（土）	人吉スポーツパレス	550
34	静岡（袋井）	11月21日（土）	袋井市民体育館	454
35	大分（大分）	11月27日（金）	南大分体育館	367
36	埼玉（本庄）	11月28日（土）	本庄総合公園体育館シルクドーム	296
37	神奈川（座間）	12月19日（土）	スカイアリーナ座間	256
下半期合計（沖縄県除く）				6,062
上半期合計				8,633
年間合計（沖縄県除く）				14,695



ノンバーバル・コミュニケーション・ ワークショップへの思い

メイミ
Meimi



ノンバーバル・コミュニケーションを通して 相互の学びがある場

札幌2回、福島5回の計7回のワークショップの中で、私自身少しずつ変化していくのが分かりました。

ノンバーバルでいかに参加者とコミュニケーションを取っていくのかという工夫を加える作業は、修正や状況に応じての調整であったり少しずつ作り上げていくものでした。それは参加者と共にファシリテーターの二人もワークショップを通じて学ばせていただく相互学習の場であり、本来のワークショップとはこうであると実感しました。お互いが対等な立場で共に向上していく場でした。

では、どのような工夫が加えられていったのか具体的なお話をしたいと思います。

札幌では、ファシリテーターの二人で事前に打ち合わせをしました。1時間と2時間のワークショップがあり、それぞれどのような構成でどんなことをしようかと細かな打ち合わせをしています。そして、普段は漫談芸と比較的おしゃべりで舞台に立つことが多い私にとっては、完全にノンバーバルで進行す

ること自体が初めての試みであり、前例がない為、参加者はもちろん自分自身もどのような反応を示すのか未知の世界でした。

そして迎えた第1回目。思うようにいかずあたふたしてしまい、共にファシリテーターを務める庄崎さんに大変助けられたのを覚えています。

日頃、1対大勢を対象にパフォーマンスすることがほとんどですが、同じ感覚ではこのワークショップは上手くいかないということが分かりました。もちろんお客様に参加していただくものもありますが、どれもが言葉での説明に頼っているということがよく分かりました。ワークショップは1対大勢ではなく、1対1の集合であり、ファシリテーター対参加者、参加者対参加者、それが繋がっていくことで全体でのコミュニケーションになっていく感じがしました。

そんな訳で、2回目以降は個々のやりとりも取り入れながら、体の動き、表情、スキンシップを使って密なコミュニケーションを行っていくというスタイルへと変化しました。更には、積極的な子ばかりでなく、自ら前に出れなかったり、あまり動けない子たちもピックアップすることで、誰もが分け隔てなく参加できるコミュニケーションの場作りを行っていきました。これはファシリテーターの庄崎さんや参加者の皆さんから学びながら工夫を加えていったものです。

いつも新鮮！ドラマが生まれるワークショップ

さて、次に訪れた福島5箇所のワークショップでは更に変化が生まれました。養護学校3箇所、普通高校、病院を訪れました。



ノンバーバル・コミュニケーション in ふくしまにて

北海道での経験もあり、ファシリテーターの2人の間でほとんど綿密な打ち合わせをせずにワークショップに望みました。二人のコミュニケーションも即興であり、ノンバーバルですのでもちろんワークショップ中はほぼ会話しきものはせず、目で会話、表情や空気を読んで、進めていきました。

5施設それぞれにカラーがあって、誰もが個性があり同じものはありません。同じことをやっても全く違う展開になったり、様々な反応があったり、新鮮でした。

ある施設では、「やりた〜い！！」と前に出てきた子がぶいっと教室を出て行こうとしてどうしようかと困惑したのですが、ワークショップ終了後、その子から「楽しかった。ありがとう。大好き。」という内容のお手紙を貰いました。本当に嬉しかったです。

大好評だったエアー大縄跳びでは、全身を使った動きに汗だくでしたが、様々なドラマがありました。

ワークショップのプログラムに参加したい気持ちはあるけど、なかなか参加できず輪から離れてしまう女の子。縄跳びは「やりたい！」と思い切って飛び込んできました。近付こうとすると「やだ！」と離れてしまうその子はその後、握手をしたり、一緒に写真を撮ったり、帰りには「ありがとう！」と声をかけてくれました。

ある男の子は、「縄跳び出来た！！」と喜ぶ姿がありました。エアー縄跳びということで、実際に縄はないのだけれど、子供たちの目線の先には間違いなく縄跳びがあるのが分かりました。

時に、全身全霊で無我夢中で相手に向き合うことは効果的であり、心と心が通い合います。手抜きせず全てを最大限使うような感覚です。日頃、私たちは相手と向き合うときどれだけ本気のコミュニケーションを取っているのでしょうか。これくらいと手抜

きしてるのでは？ 日頃の自分を振り返るプログラムでした。

普通高校での反応は、養護学校での反応とは対照的でした。思春期特有の恥じらいやあからさまな「面倒くさい！」という態度。養護学校の小学生と同じ方法というわけにはいきません。少しずつ少しずつ生徒たちの表面を取り壊していく作業でした。数名、養護学校の学生が混じって参加していましたが、逆に積極的で活発。それもまた学生たちにとって新鮮な刺激となったように思います。

最終日に訪れたのは病院でした。闘病中の子供たちとその親御さんたちが対象です。これまでとはまた違います。こんな幼い子供たちが病気と闘っているのかと思うと胸を締め付けられる思いでしたが、段々と笑顔になり最後はキャキャキャと無邪気に笑う子供たちの顔はとても美しく生きてることの素晴らしさを感じました。

日頃、言葉でのコミュニケーションが多い私たちですが、このノンバーバルコミュニケーションワークショップを通じて、真のコミュニケーションを学びます。ノンバーバルで心を通わせることを知ることにより、言葉を使った日常の中でも、言葉と心が一致した真のコミュニケーションを取れる人へ成長できると感じました。

～メイミ プロフィール～

漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。

舞台や各種イベント、様々な場面で漫談家・司会者等の活動をする傍ら、都内のデイサービスセンターで介護福祉士として高齢者介護に携わる。特定非営利活動法人笑顔工場を設立し、現在は十数名の若手芸人の参加者を連れて、関東を中心に福祉施設でのお笑いライブを展開。様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。これからの長寿社会に向け、「笑って長生き」という考えを広める為の活動を展開している。アイデアヒューマンサポートアカデミー/カウンセリングスキルベーシック/トップメンタルトレーニング修了。日本アロマセラピー統合医学協会認定心理アロマアドバイザー。クエスト総合研究所認定/クエストアートセラピーメンタルケア・アドバイザー



ノンバーバル・コミュニケーション in さうぼろにて

ありがとうございました・特定寄付募金活動 ナンバーバル・コミュニケーションワークショップ in ふくしま

みなさまに募金を呼びかけました「ナンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in ふくしま」につきまして、多くの個人、団体のみなさまからご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

収支の決算状況につきまして、下記の通りご報告いたします。

科目	決算額	備考
(1) 経常収益		
受取寄附金	247,320	
受取募金	247,320	特定寄附金
経常収益計	247,320	
(2) 経常費用		
事業費		
旅費交通費	344,522	移動費、宿泊費
諸謝金	400,000	講師、看護師謝礼
消耗品費	173,629	プログラム消耗品代
保険料	15,550	行事保険料
会議費	86,378	打ち合わせ経費
経常費用計	1,020,079	
増減額	△ 772,759	差額は主催者負担金にて充当

当日は日産労連のボランティアのみなさまにご協力をいただきながら、たくさん子どもたちと過ごすことができました。

募金総額 247,320 円 (6 団体 / 13 個人)

9月17日(木)

福島県立須賀川養護学校郡山分校 35名

福島県立須賀川養護学校 27名

9月18日(金)

福島県立いわき養護学校 107名

福島県立いわき養護学校くぼた校 86名

9月19日(土)

福島県立医科大学附属病院 33名

事業の詳細につきましては、当基金のホームページにて報告書を公開しております。ご参照ください。

ありがとうございました 自動車総連さま寄附金贈呈式

力強いご協力を毎年いただいている、自動車総連(会長 相原康伸)様より、6,600万円のご寄付を頂戴いたしました。去る11月17日に贈呈式が行われ、当基金瀬田代表理事、齊藤業務執行理事が出席し、ご厚志をいただきました。

経済情勢がいまだ厳しい状況にも関わらず、変わらぬご支援をいただき感謝にたえません。心からお礼申し上げます。

いただきました資金は、全国の障害のある方とのふれあいの場をさらに広げていくために活用して参ります。ありがとうございました。



ナイスハートなご支援をありがとうございました

当基金が事業を行うための運営資金として、寄付金と賛助会員の会費が重要です。より多くの方々が趣旨をご理解いただき、ご厚志を賜りますようお願い申し上げます。

■賛助会員 賛助会員会費 10 1万円

9月から12月までの間にご厚志を

いただいたみなさま(順不同/敬称略)

【寄附金】島田 初江様、(特非)土に還る木森づくりの会様、高良 明枚様

【賛助会員】わくわくランド様

